

過酷な受験戦争や留年などの苦しみから、 歯学部学生を少しでも解放してあげたい。

今から24年前のこと。歯科大学大学院の3年生だった弘中崇氏は、休み時間に校舎最上階でぼんやりと外を眺めていた。「その時、ひとりの学生がふらっと入ってきたかと思うと、窓を開けて飛び降りようとした。慌てて駆け寄りどうにか引き止めて話を聞くと、沖縄県出身の2年生で、『成績が悪く、国家試験に受かりそうにないから死にたい』というのです」。

説得して思いとどまらせた後、その学生は年度末に退学して故郷に帰っていったという。

卒業

業後に歯科医院を開業する予定で物件探しを始めていた弘中氏だったが、「国家試験のために死を考えるほど追い詰められる受験生がいるなら、彼らの力になりたい」と考えた。これが、歯科医師国家試験対策専門個別指導塾「弘中塾」を立ち上げた契機である。

当時、歯科医師国家試験向けの塾は大手予備校が2校あったが、個別専門の塾はまだ存在しなかった。目黒の6畳一間のアパートにオフィスを構え、広告も出さずにひっそりと開業したが、歯学部在籍の学生にDMを送り始めるとすぐに応募があり、予定の枚数を送る前に40人の定員に達してしまった。翌年からは、全国から問い合わせが来るようになり、生徒数は

どんどん増加していった。

よく

と言われる歯科医院。歯科医師過剰については、すでに1980年代から認識されており、文部科学省が各大学に歯学部入学生定員の削減を要請するとともに、厚生労働省が国家試験の合格基準を引き上げることで、新規参入の削減が行われてきた。2000年頃まで9割を超えていた国家試験合格率だが、近年は6割前後で推移している。

「厚労省の方針として、将来はさらに削減を進める予定で、現在2000人の国家試験合格者数を1200〜1500人にすることが決まっています。こうした状況もあってか、歯科医は『なりたくない職業ランキング』では圏外。歯科大も私立の場合、都内の4校以外はほぼ定員割れを起こしています」。

この状況を受け、私立歯科大で大きな問題となっているのが、留年生の増加である。学生の定員割れは補助金減額につながるため、学生を留年させることで人数調整を行っているという。「国試の合格率も、補助金に影響します。そこで都内の大学は、合格率を引き上げるために低学年の間に留年させ、合格できる見込みがある学生のみを進級させるようにしていると聞きます」。

こうして、実情を知る者からは、「留年商法」と揶揄される状況が生まれているのだ。

「私立歯科大学では、入学以来、一度も留年することなく卒業できる学生は、都内の大学で約40%、地方では実に20%近辺を推移しているのです」。

歯科医師国家試験は6年次に実施されるが、これとは別に、歯学部学生は4年次にも全国統一試験を受験しなければならぬ。15年前から実施されているCBT・OSCEは国試の仮免許試験とも言われ、受からなければ5年に進級できない。「この試験向けのテキストが1年次から配られるのですが、1年間で15冊、4年間で60冊にもなり、中には800ページを超えるものもあります」。

さらに、各学年の前後期の期末試験対策も必要で、物量に圧倒されて気持ちがくじけてしまう学生も多いと弘中氏は語る。「多くの受験生を見てきましたが、苦しんでいる生徒は減っていない。この現状を食い止めるなければなりません」。

そのためには、現状の周知を進めることが重要だという。「歯科医の父親でも、合格率90%の時代の知識で止まっている方がいます。本人はもちろん、保護者や高校の先生も含め、できるだけ早い段階で知ってほしい。

CHALLENGER

HIRONAKA TAKASHI
株式会社弘中塾 代表取締役

弘中崇

1967年東京都生まれ。東京理科大学を経て、日本歯科大学歯学部卒業。1996年に歯科医師国家試験合格。翌年、日本歯科大学歯学部大学院歯学研究所に入学し、2001年に卒業。同年4月、歯科医師国家試験対策個別指導専門塾「弘中塾」を設立し、2018年に株式会社弘中塾を設立。

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

い。知らないままこの道を歩かせるのは可哀想ですし、無責任だと思います。また学生に対しては、苦しいと声をあげてほしい。ひとりで悩んでいる学生が、年々増えているように思いますが、不安や苦しみは誰かと共有することで心が軽くなり、前に進めるものです」。

そこで、弘中氏は6年前にYouTubeチャンネルを開設し、今春はインスタグラムも開始する。受験テクニクよりも、メッセージ的なコンテンツを中心に、現状を訴えていきたいという。

「つぼ、弘中塾の運営については、塾生一人ひとりの傾向や苦手分野を見極め、どうすれば受験生の負担を軽減できるか、毎年ノウハウを見直

して改善を加えてきた。さらに、新型コロナウイルス禍以降のニューノーマルにも対応。スマホやタブレットがあれば、メタバース空間においていつでもどこでも好きなだけ学べる「モバイル弘中塾」を23年春にスタートした。国試対策の5年、6年生および浪人生向けだが、早ければ24年春には、基礎から学べる「ベーシック版」とCBT対策の4年生コースも開始する。「新しい学び方を今の社会に浸透させ、受験生の本来もっている気持ちを育てることが重要だと感じています。生徒を増やすだけではなく、苦しむ人を減らしたい。私も色々な人に支えられてここまで来ましたが、若者の力になることで社会に恩返ししていきたいですね」。